CONSERVATION VOLUNTEERS Vol. 13

発行：特定非営利活動法人日本環境保全ボランティアネットワーク（略称：ＪＣＶＮ）

特集＿＿＿熊本地震と緑のボランティア p1
「農地復旧のための共助支援の手引き」のご紹介 p2
熊本県西原村での農業ボランティア p3
報告＿＿「はじめよう、心が豊かになるボランティアライフ」 p4
筆記試験によってリーダーを育成・評価できるのか p5
総会報告 p6
書籍の紹介:「刃物と日本人」 p7
お知らせ＿リーダートレーニング研究会の日程、ほか p8

特集　熊本地震と農業ボランティア

■ はじめに

朝廣和夫　（九州大学芸術工学研究院環境デザイン部門、JCVN副代表）

平成 28 年（2016 年）熊本地震が 2016 年 4 月 14 日（前震）、16 日に本震がありました。本震は、「本当に恐怖であった」と被災者より当時のことをうかがいました。ここで、ボランティア等の視点から今回の災害の特徴を考えると、

① 本震後、余震リスクが続き、多くの方が公園や学校へ自動車等で避難を継続された。
② 社会福祉協議会の災害ボランティアセンターは３日後の設置を目指しますが、①を受け設置時期は遅れ、各地のボランティア派遣数も伸びが抑制された。
③ 阿蘇という国立公園の被災により観光を中心に様々な生業が影響を受け、九州全域に広がった。

このような特徴があると思われます。自然系の NPO では、RQ 九州をはじめ、公益財団法人オイスカ、NPO 法人 NICE、主力は社会福祉協議会の災害ボランティアセンター、支援 p、その他、様々な市民、行政、企業、大学の方々が、支援を継続されています。

約３か月。一般的に、家に戻れる被災者は学校、仕事の生活が戻り、災害ユートピア期が終わりを迎える時期です。仮設住宅、みなし仮設で生活を始められる居住者、心身に傷を負われた方々は、長い、復興の道のりとなります。

本誌面では、農業ボランティア、農地復旧ボランティアについて、紹介させていただきます。

■ 「農地復旧のための共助支援の手引き」のご紹介 LT研(4/21) 報告

朝廣和夫 （九州大学芸術工学研究院環境デザイン部門、JCVN副代表）

◇平成 24 年 7 月九州北部豪雨から約 4 年

九州における近年の大きな災害は、平成 24 年７月の九州北部豪雨が、まだ記憶に新しいことと思われます。1 日で 200mm を越す豪雨が３日以上続きました。本 JCVN 関連では、理事の NPO 法人山村塾の小森耕太氏らの農地復旧ボランティアなどの活動が八女市黒木町で展開されました。副代表の朝廣は、国立研究開発法人科学技術振興機構：JST（社会科学技術開発センター：RISTEX）の「コミュニティがつなぐ安心・安全な都市・地域の創造」領域の研究委託を受け、八女市、NPO 法人山村塾、NPO 法人がんばりよるよ星野村、うきは市の協力を得て、共助による農地復旧活動などの研究を進めました。3 年の調査を経て、今年、2016 年 3 月に「農地復旧のための共助支援の手引き」という、農地・農業用施設復旧の災害ボランティアに関する手引きを作成しました。

最も中心となる研究課題は、農地・農業用施設復旧や、緑のボランティアのための災害ボランティアセンターを設置する仕組みがない、ということです。社会福祉協議会の災害ボランティアセンターは被災者の生活復旧を目的とし、家屋の敷地内の活動を中心とします。産業関連、例えば農地の復旧や農業支援にボランティアの派遣は行われません。一方、被災者にとり、生活の復旧と共に、生活を支える生業の復旧も併せて重要です。特に農村は、農地だけでなく、水路などの共同施設も多く、草刈りなど共同作業もあります。季節の移り変わりと共に進む農事、自然環境は時期を逃すことができません。この豪雨での八女市、うきは市の農地復旧ボランティアの事例は、全国的にも珍しい活動でした。

これらの活動は、平時の都市農村交流の経験が被災時の役に立っています。特に、NPO 法人山村塾の活動は、これまで進めてきた環境保全ボランティア、人材育成活動が、被災時に大きな効果を発揮したと考えられます。JCVN では、2016 年４月 21 日にリーダートレーニング研究会（LT 研）を開催し、本手引きの紹介をテーマとし、熊本地震も視野に入れ、意見交換を行いました。本誌で簡単に紹介させていただきます。

◇リーダートレーニング研究会 (4/21) 報告

「環境保全 NPO が行う災害支援を考える」
日時：平成 28 年 4 月 21 日
参加者：９名
「災害後の農地復旧のための共助支援の手引き」の紹介を行いました。

【問題認識】
中山間地の豪雨水害で地域から露見してきた問題として、このようなものがありました。

- 高齢者の行き場がない
- 農地は高齢者の幸福度の高い居場所である
- 農地復旧工事の２～３年が待てない
- 生活自体を諦めてしまう人もいる。

農地復旧ボランティアは、福岡県八女市黒木町笠原で NPO 法人山村塾が開始し、その後、八女市星野村、うきは市へと展開されていきました。様々な効果がありました。特に、水路や農地に入った土砂の除去など、小規模災害について多くの人々の手作業で復旧ができたこと。また、発災年の翌年の春から、作付けができる農地を増やすことができたこと。そして、地域の人々の「よし、がんばるぞ」という動機付けに、ボランティアの協力が寄与したことなどです。

【手引きの構成】

この手引きは３部構成からなります。第１部は、「災害とは何か」、「行政などの機関の動き」、「タイムライン」の紹介など、農地復旧の共助をどう動かすのかについて事例を交えて紹介しました。第２部は、災害ボランティア組織のパターンを紹介し、活動に必要なボランティアのリクルーティング、ニーズ調査、１日の運営の流れ、必要な施設などについて紹介しています。最後の、第３部は、小森氏から具体的な作業「田んぼの石拾い」「土砂だし」「茶畑の土砂片付け」「ハウスの流出後の片付け」「石垣修復」などを紹介し、最後に、必要な道具の種類を写真付きで紹介しています。

【質疑応答】
Q、初めて災害ボランティアをする人の対応はどうでしたか？
A、作業ができないと感じられた人は、避難所の掃除などに回ってもらい、適宜対応しました。数ヵ月たつと、石拾いなど、子どもでも参加しやすい仕事が増えてきました。50％の方々は初めて災

害ボランティアに参加された方々でした。とにかく何かをやりたいと思われて参加された方が多かったです。課題は、泥だらけで帰宅させてしまったこと。暑さや寒さ、きつい状況で帰路につく方々もおられました。

Q、農地復旧の優先順位は？
A、収穫、作付、田んぼの稲が枯れないように道路・水路の補修をすること。補助事業、重機が入れるところは後回しの判断をしました。効率的な作業が大事になります。

◇ダウンロードサイト
【JST-RISTEX】
平成 28 年（2016 年）熊本地震への対応、情報発信サイト
http://www.ristex.jp/cr/events/kumamoto_earthquake.html

こちらは、JST-RISTEX の熊本地震への本領域の調査結果提供サイトです。手引きをダウンロードすることができます。

【朝廣の手引きの Facebook サイト】
Facebook で「「災害後の農地復旧のための共助支援の手引き」のページ」で検索いただくと、本手引きのダウンロードリンク、および、熊本地震における農業ボランティアに関する情報を随時 UP しています。

■ 熊本県西原村での農業ボランティア

朝廣和夫　（九州大学芸術工学研究院環境デザイン部門、JCVN副代表）

◇農業ボランティアの設置状況

熊本県は社会福祉協議会の災害ボランティアセンターを 2016 年 5 月 25 日現在で約 16 ヶ所設置しています。これらの地域で災害ボラセンと連携を取り活動を展開した農業ボランティアセンターは、西原村、１か所のみでした。

この設置経緯は、西原村の災害ボランティアセンターがニーズ調査をする中で、下記のような課題が出てきたからです。

・避難生活が続き、農作業に遅れ
・水不足により、米、サトイモ生産が難
・秋以降の換金作物であるサツマイモの作付は 5 月中に終えなければならないが手が回らない

このような状況を受け、社会福祉協議会とは切り離し、２名の民間ボランティアに運営を依頼されました。Facebook で西原村農業ボランティアセンターのページを開設し 2016 年 5 月 6 日に始動したそうです。はじめてみると、農家、ボランティアからの評判が良かったとのことでした。

熊本地震における農業ボランティアの動向にアンテナを張っていた私は、同僚の研究者に調整をいただき、開設３日後の５月９日に、NPO 法人山村塾の小森氏と打合せに西原村を訪ねました。そこには複数の大学の先生方も集い、農ボラセンの運営に関して意見交換を行いました。その後、西原村農ボラセンの活動は、サツマイモの定植作業が必要な５月末まで、２日前の事前予約制とし、毎日実施する方針を打ち出しました。

私は、その後、5 月 17 日に学生とボランティアとして参加し、サトイモ畑の手入れと、出荷するサツマイモのヘタ取りを農家の方とお話をしながらお手伝いしました。サツマイモの品種はシルクスイートいい、おばあさんが、さっと作ってくれた焼き芋は、甘く、美味しかったです。

この他、農業ボランティアはNPOや市民活動ベースで実施されています。南阿蘇では、AAA や地元の市民団体。RQ九州、オイスカも早くから活動を展開されています。6月には、益城町でも活動が見られ、徐々に広がりが見られつつあります。

無償で行われている農ボラセンの活動を見ながら、農政局、熊本県、被災自治体に電話、アンケートなので支援の可能性を探りましたが、国はメニューがない。県は、多面的交付金の柔軟運用で対応、市町村は実施しないという回答でした。

◇草刈りボランティアの展開

2016年5月27日、西原村の農ボラセンをされているK氏より、地元から草刈り支援のニーズがあがっているが、動力機械なので、社協、農ボラセンは動けないとの電話をいただきました。熊本なので、一般財団法人グリーンストックが動けないか探りましたが、壊れた牧野の柵の修理が優先であり、西原村は距離があり難しいとのことでした。

そこで、熊本県造園建設業協会に依頼しました。現地で調整いただいた結果、ニーズ調査は社会福祉協議会が実施し、その情報を受けて造園建設業協会が草刈りボランティアに入る体制が整いました。第１回目は6月5日実施、43名の参加、第２回目の6月16日は43名、約38社の造園技術者の方々に３地区で活動いただきました。作業場所は、2kmにも及ぶ幹線道路沿い、河川内の草刈り。これを出事として地元が実施されていたのも驚きですが、このような緑のボランティアが活動する仕組みが何もないことを大きな課題として再認識しました。

日ごろ、都市農村交流、観光、ボランティアを声高に言うのであれば、なぜ、災害時に緑のボランティアセンター機能が設置されないのか。なぜ、都市のボランティアを、緑や農地の復旧にアクセスさせないのか。農的暮らしの復興が真の復興であり、社会奉仕の精神に反するという論理で仕組化されないのは、今後の大きな課題と考えます。

■JCVN監修「はじめよう！心が豊かになるボランティアライフ」冊子完成

平 希井　（NPO法人循環生活研究所）

今日では休日になるとまちのあちらこちらで環境イベントが実施されています。まちづくりのイベントから環境啓発、クリーンアップなどその種類は様々です。そこでは年代問わず多くの市民で賑わいます。私たちは、そんな環境イベントの一環として子どもがリサイクルの村でお仕事体験をする「子どもくるくる村」や「フリーマーケット」などの企画運営を長年行っています。

特に「子どもくるくる村」は1日に５００人以上の子ども達の受け入れを行っており、私も含む学生で運営を行っています。ボランティアは通常で７０人、多い時には１２０人以上になります。参加するボランティアは学生から高齢者まで、初心者からベテランまでと多種多様。必死に集めたスタッフも、遅刻や無断欠席で、他のスタッフや来場者に迷惑をかけてしまう人もいました。私たちは悩みました。イベントの成功は、ボランティアスタッフの態度や対応が大きく影響します。成功を目指して当日まで準備を重ねても、スタッフによって一瞬でイベントの質が下がるのです。話し合った結果として、手間はかかりますが、ボランティアスタッフ全員に、事前研修会を数回実施し“心得研修”に力を入れました。すると、無断欠席はなくなり、遅刻者もほぼいなくなりました。このことから私たちは“ただ意識が低いからではなく、ボランティアスタッフをするのに必要な心得や態度を知らなかっただけ”だった、ということに気が付いたのです。また、ＮＰＯでもボランティアスタッフが不足しているという課題がある一方で、参加してみたいが、参加の仕方が

分からず、始めの一歩が踏み出せない人も多いということも分かりました。そこで環境ボランティア研修で使う、わかりやすい冊子の作成をすることにしました。

私は、この子どもくるくる村に小学1年生から参加者し、卒業してボランティアになりました。経験はあるものの必要な環境ボランティア知識やスキル情報を持っていませんでした。そこで福岡市からの助成を受け、ＪＣＶＮに支援を受け、全２回のボランティア研修を開講しました。第1回研修では、環境ボランティアの概論から安全管理、コミュニケーションについて実践を通じて学ぶなど環境ボランティアの基礎から応用まで幅広く学びました。第２回研修では、山村塾の環境ボランティアの事例、グループごとのディスカッションなど、より深い部分を学びました。これらの研修会での学びに自分たちのこれまでの経験を付け加え、JCVNに監修を受け、冊子「心を豊かにするボランティアライフ」が完成しました。

本冊子にはイベントに楽しく参加するための準備、経験者の声、心得等を記載しています。

この冊子を通して、より多くの方々が様々な環境ボランティアに参加するきっかけになればと思っております。

「はじめよう！心が豊かになるボランティアライフ」A4版・全8ページ

ご希望の方は、TEL(092-405-5217)までご一報下さい。（切手代をご負担いただきます）

実施報告　リーダートレーニング研究会

■第19回「筆記試験によってリーダーを育成・評価できるのか」

志賀　壮史（JCVN 理事、NPO 法人グリーンシティ福岡理事）

リーダートレーニング研究会も第１９回となりました。今回のテーマは「筆記試験」。実技や実習にこだわって研修に取組んできた JCVN ですが、「他の資格のように筆記試験を作ってみたらどんなものになるだろう？」との疑問から、このテーマになりました。

と　き：2016 年 6 月 16 日 18:30-20:30
ところ：あすみん（福岡市）
参加者：会員 8 名
内　容：前半＿＿筆記試験と答え合わせ
　　後半＿＿ディスカッション
参加費：一般＿1,000 円／会員・学生＿無料

事前に志賀が作成した筆記試験の問題は全て四択で計１０問。例えばこんな問題です。

○ 初参加者と常連ボランティアが入り交じったチームで森林保全活動を行っている場合，もっともとるべきでない現場リーダーの行動はどれですか？（以下、選択肢が四つ）

○ １日の森林保全活動をはじめる時，現場リーダーが行う朝のオリエンテーションは大切です。安全や作業への理解，ボランティアのモチベーション等から考えて，オリエンテーションでの順番としてもっとも適切なものはどれですか？（以下、選択肢が四つ）

○ 作業をはじめる前の「道具の説明（ツールトーク）」について，もっとも適切でない説明はどれですか？（以下、選択肢が四つ）

筆記試験というと抵抗感を持つ人もいますが、現場リーダーのトレーニングプログラムとして考えた場合、正解しているかどうか、高得点をとれるかどうかは、あまり関係なさそうです。むしろ答え合わせに多くの時間を割き、出題の意図や大事にしたい考え方などを話し合うことが学びにつながると考えます。

当日は、まずは個人で１０問を解答し、その後、答え合わせをしながらディスカッション。その中で以下のような話が出ました。

・オリエンテーションの順番など、なるほど問題を解くことでふりかえることができる。
・これまでの実習と連動していて良い。しかし、受講していない人には難しい。
・現場リーダーのあり方を考えることになる。
・穴埋め問題や定義を記述する問題もできそう。
・「学びの機会 or 短い実習」としての筆記試験と「効果測定」のための筆記試験とでは設問の作り方が違ってくるだろう。

研究会の後半では、出席したメンバーで新しい問題を検討。一人１問以上を作成した上で、全員でシェアしました。この結果、新たに１１問が生まれました。

筆記試験に解答することもよい学びになりますが、問題を作成することで現場リーダーが直面する多様な場面を想像し、また、必要とされる技術や姿勢を明確にしていくことになると感じました。

今回の筆記試験は、試行版ですので問題文や選択肢にまだまだ改善・推敲の余地があります。継続して検討して、まずは１００問を目標にストック、今後の研修プログラムに役立てていきたいと考えています。

総会のご報告

■第８回総会のご報告

志賀　壮史（JCVN 理事、NPO 法人グリーンシティ福岡理事）

去る平成２８年５月１９日、特定非営利活動法人日本環境保全ボランティアネットワークの第８回目となる通常総会が行われました。

以下の通り、その議事をご報告いたします。

＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊

１.開催日時　平成２８年５月１９日
　　１４：００～１６：００
２.開催場所　福岡市NPO・ボランティア交流センター
　　（福岡市中央区今泉 1-19-22）
３.正会員総数１０名、出席した正会員数８名
　　（本人出席６名、表決委任者２名）
４.審議事項
　第１号議案　平成２７年度事業報告について
　第２号議案　平成２７年度決算報告について
　第３号議案　役員の改選及び監事の増員について
　第４号議案　平成２８年度事業計画について
　第５号議案　平成２８年度予算計画について
５.議長選任の経過

定刻になり理事長 重松敏則より開会が宣言された。引き続き、各理事の出席への謝辞と、各議案への検討をお願いする旨の挨拶があった。

また、定款２７条により、本日の出席者６名、委任状による出席者２名、計８名は当団体正会員数１０名の５分の１を超えており、本総会は成立しているとの報告があった。続いて、定款第２６条に従い、理事 小森耕太が議長に満場一致で選任され、下記議案につき審議した。

６.議事の経過の要領及び議案別決議の結果

＜第１号議案及び第２号議案について＞

資料をもとに平成２７年度の事業報告および決算報告がなされた。続いて、監事 毛利宗孝が監査報告を行なった。第２号議案に関し、議長より平成２７年度からの事務所使用料が減額されたことに対する意見を募ったところ、問題は挙げられず承認された。

以上の内容を受けて第１号議案及び第２号議案について採決を行ったところ、全員一致で承認さ

れた。
＜第３号議案について＞
議長から、現役員については平成２８年６月３０日をもって任期満了の旨、説明があった。質問･意見を求めたところ現役員の再任としたい旨の意見があり、採決の結果、全員一致で承認された。また監事 毛利宗孝より監査体勢の強化のため監事を１名増員する必要がある旨が述べられた。増員については全員一致で承認された。議長から、監事として原愛子を選任することとしたい旨を諮ったところ、異議なく承認され、選任することに可決確定した。
＜第４号議案及び第５号議案について＞
資料をもとに平成２８年度事業計画及び予算計画の説明がなされ、各事業について意見交換を行った。「リーダーズガイドもしくはボランティアガイドの発行」について、実現に向けて担当者を選任するべきとの意見が述べられ、今後の理事会で検討していくことが確認された。「リーダートレーニング研究会」について、主催事業としてリーダー育成講座を開催するべきとの意見が述べられ、今後の理事会で検討していくことが確認された。
上記議論を受け、第４号議案及び第５号議案について一部修正を行った上で採決を行ったところ、全員一致で承認された。

７.議事録署名人の選任に関する事項
議長より、議事録署名人２名の選出について諮ったところ、重松敏則氏と朝廣和夫氏の両名が推薦・承認された。
議長は、以上をもって本日の議案の審議を全て終了した旨を述べ、閉会を宣した。

書籍の紹介

「刃物と日本人」

●書籍の紹介

「刃物と日本人」ナイフが育む生きる力：山と渓谷社　NPO法人日本エコツーリズムセンター編
価格：￥864

35年ほど前まで、田舎の子も都市の子も肥後守(折りたたみ式の小型のナイフ)を持っており、自分で器用に鉛筆を削っていた。田舎の子は里山から(都市の子も夏休みや冬・春休みに祖父母が住む田舎で)、雑木や竹を鋸や鉈で伐り出し、ナイフで削ってチャンバラの刀や木の実鉄砲などの玩具、ままごとに使う箸や皿なども手作りして遊んでいた。肥後守は村祭りの露店や町の文房具店でごく普通に売られており、子供が小遣いで買ったり親が買い与えたりしていた。使い方はガキ大将や年上の子、あるいは親が教えていた。刃物を使えば当然たまにはケガをして血が滲み出る。筆者も左手を(右手はナイフを持つから)よくケガしたが、10分ほど右指で押さえていれば血は止まるので、ヨモギの汁をぬってまた細工を続けた。親や祖父母に言うこともなく、みんなそんなことは当たり前で、経験を重ねてケガをしないように手先が器用になっていった。

本書はそのようにかつての子供達が日常的に刃物を使いこなすことによって、手先が器用になるだけでなく、根気や気力、コミュニケーション力などが育まれたと説いている。しかし、少年による刺殺事件などを機に「子供に刃物を持たせるのは危ない」と全国一斉に刃物を使わせなくなった。そして便利な鉛筆削り器が普及し、「ものやことは道具でこつこつと作り出すのではなく、買うものになった」。現在の子供達は物質的に恵まれ、ハイテクな面白いおもちゃで遊んでいる。だが手先は不器用になり、スマホによるいじめに象徴されるように人と信頼関係を構築する力やコミュニケーション力も危うくなっている。子供達の日常生活から創造的な「もの作り」の機会が少なくなったことと、無気力や不登校、ひきこもりが増えたことは決して無関係ではないだろう。

2011年3月の東日本大震災・津波で、ライフラインの途絶や孤立などの被害があったなかで、緊急時に刃物や火のあることのありがたさが再認識された。「刃物は確かに使い方によっては危険な道具であるが、子供達と信頼関係を築いて正しく預ければ、優れた利便性を発揮し、成長と創造力を育むツールである」。執筆者らは実践活動を行っており、たとえば「ガキ大将スクール」でこれまで32年間にのべ2万5千人の子供達にナイフを与え続けており、現在も年間4,000人の子供を受け入れているという。

本書はリーダーを志す人には必読書であり、子育て中のお父さんやお母さん、孫がいる年配者、将来結婚して子供を育てたいと願う若者、そして、幼稚園や小中学校の先生方、特に校長・教頭先生、さらに自治体政策に携わる関係者、市長・町長さんに是非とも読まれることをお勧めするものです。（重松敏則 記）

お知らせ

イベント・ボランティア情報

●JCVNリーダートレーニング研究会

JCVN では、隔月で環境保全リーダーのためのプログラム研究会を実施しております。リーダーの方、関心がある方、私たちと一緒に活動したい方のご参加お待ちしております。

◇８月18日（木）
安全管理：ヒヤリハット研究やってみよう

講師： 志賀 ／ 進行：未定
とき： 18 時半～20 時半
場所： 福岡市 NPO・ボランティア交流センター 会議室
参加費（会員・学生）無料 （非会員）1,000

◇10 月 20 日（木）

内容： 未定
場所： 未定

●JCVNの仲間を広く募集しています！

あなたの支援が、「いつでも」「どこでも」「だれでも」できる環境保全活動をめざした団体のネットワークづくりの力になります。入会申込書をご送付いたしますので、事務局までお問い合わせください。

- 個人正会員（¥10,000／年）
- 個人賛助会員（¥5,000／一口以上）
- 団体正会員（¥20,000／年）
- 団体賛助会員（¥10,000／一口以上）

JCVN理事をはじめ、環境保全活動の専門家のノウハウが詰まった会報が、年に3回お手元に届きます！また、メーリングリストでもJCVNが開催・協力するイベント情報等を随時ご案内いたします。

活動への寄付も受け付けています。環境保全団体のネットワークづくり、リーダー育成支援のため、皆さまのご協力をお待ちしています！

［会費・寄付振込口座］
番号：０１７６０－９－１２２４０７
名称：日本環境保全ボランティアネットワーク

CONSERVATION VOLUNTEERS １３
■発行日：平成２８年７月２５日
■発行頻度：年3回
■発行：特定非営利活動法人日本環境保全ボランティアネットワーク（略称：ＪＣＶＮ）
■事務局：〒810-0022福岡市中央区薬院4-5-2-202
tel/fax: 092-215-3966
e-mail: jcvn@greencity-f.org